

ネットワークについて考える

—総合型地域スポーツクラブ全国協議会(S C全国ネットワーク)—

1. 現状と課題

総合型地域スポーツクラブ全国協議会(S C全国ネットワーク)が設立されて2年が経過しようとしています。その間、全国の総合型地域スポーツクラブも約2,900クラブから約3,200クラブに増加してきました。その多くのクラブがスポーツ振興くじの助成を受け運営していますが、一方で、自主自立を目指し、公共施設の指定管理や各種事業を受託して活動している総合型クラブも徐々にではありますが、増えてきています。

そのような中、昨年8月26日に文部科学省より「スポーツ立国戦略」が発表され、多くの総合型クラブ関係者が大いなる関心を寄せ、今後のスポーツ振興施策を注視しています。さらには、日本スポーツ振興センターの助成内容が増え、総合型クラブの要望を完全に満たすまではいかないにしても、徐々に方向性に変化が現れています。

多くの総合型クラブでは、自己財源の安定的な確保と指導者の確保、さらにクラブハウス機能を兼ね備えたスポーツ施設の確保、この3点が主な課題であると思います。総合型クラブは、自主運営をめざし、地域でそれぞれに知恵をしぼり、悪戦苦闘しながら、50年、いや100年の歴史を刻むクラブを思い努力されているものと思います。

2. 大きなネットワーク

S C全国ネットワークが基盤となり、クラブのネットワークができつつあります。今後はS C全国ネットワークがキーステーションとなり、スポーツ分野の各種団体との連携、それ以外の団体との連携など、行政も含め、各団体が横並びの立場で、もう一つ上の段階のネットワークづくりも構想していくべきと考えます。

例えば「健康増進に係るプログラム」について総合型クラブが受託することを検討するなど、住民の一番近くにいて健康について状況を見ることができ、プログラムを実施できる団体としては、総合型クラブが適任ではないかと思います。総合型クラブが担うことによって、クラブ、住民のみならず、行政においては健康セクション、スポーツセクションの方々、そして、地元企業まで、それぞれがWIN・WINの関係になれる、こうした企画・構想を協議できるネットワークが必要な時代であると思っています。

3. 小さなネットワーク

SCおおいたネット（大分県）では、今年度から、「夜なべ談義」と称して、県内を6ブロックごとにクラブの悩みやクラブの未来などを話し合う事業を行っています。参加者は設立済クラブ・準備中クラブの方のみです。いろいろな話題で仲間意識が醸成されています。まずは、顔をつき合わせ話すことから始まると考えています。お互いを知り、共通の話題を持つことで、クラブの課題解決にもつながっていきます。ネットワークを深めるきっかけづくりになっています。事業の成果として、クラブ間の連携事業の機運が高まり、その他の事業に良い影響を及ぼしています。

もう一つは、クラブ交流会の実施です。ソフトバレー・卓球・サッカーに加え、今年度は障がい者との交流種目として、卓球バレーなど多くの種目の交流試合やニュースポーツの体験などを実施しました。地元プロチームからのグッズ提供を受け抽選会を実施するなど、スポーツをするだけでなく、参加者がより楽しめる活動も工夫して行っています。

これらの事業は、次の事業への展開のベースと考えています。

- 1) プロチームと総合型クラブのコラボレーション
- 2) 総合型クラブとプロチームとの新たな連携の確立

（クラブの事業にプロチームの選手が指導したり、クラブ会員がプロチームのサポーターとなったりと多くのシーンが想定できます。）

その構想を「夜なべ談義」から自由に発想できるシステムができたり、交流会でのノウハウをクラブの現場で活用したりと、SCおおいたネットの活動が各クラブでの事業展開のきっかけになればよいと考えています。クラブの運営・活動には、多くの方々の協力や連携が必要ですが、そのためには、連携・協力できるシステムや情報を提供しあえる環境ができればと考え、SCおおいたネットは活動しています。

丸山順道（総合型地域スポーツクラブ全国協議会常任幹事）

